



塚本 逸彦 議員
(政清会)



幕別町忠類地区は、豊かな自然環境に加え、町内唯一の道の駅やキャンプ場等の観光資源に恵まれ、大樹町で進められている宇宙開発事業との連携や、十勝南部の地の利を活かした移住・定住の受け入れ地域として非常に適していると考えます。

学校においては地域との協働活動も力に魅力ある教育施策や生活環境整備に取り組み、子育て世代も呼び込み人口の維持・増加持続的な地域となると考え、以下伺う。
(1)移住・定住の受け皿となる住宅の現状は。
(2)宇宙関連企業の従業員や研究者等の移住・定住を促進するための町の施策について、現在の取組と今後の考えは。

(3)忠類地域はウィンタースポーツが盛んな他、自然や博物館等子育て環境も整っている。こうした地域の優位性を活かし、子育て世代への戦略的な移住・定住促進策や、山村留学等の教育施策の取組について、町の認識と今後の考えは。

問

答

忠類地区の環境を活かした移住・定住対策を

忠類地域の強みを最大限に活かし、地域の活性化や移住・定住につなげていく

(4)移住・定住のサポートに向けた地域おこし協力隊を採用する考えは。

町長

(1)忠類地域では空き地・空き家バンク登録の空き地1件、単身住宅を含む公営住宅59戸、戸建て住宅13件の空き家を把握している。
(2)本町は宇宙関連企業の誘致に向けて、忠類インターチェンジから大樹町へ向かう旧国道沿いの町有地4か所を候補地として公表されている。忠類地域は北海道スポーツに近い地理的優位性があるが、民間賃貸住宅の空きがない状況が続いているため、今後の住宅需要を見据えつつ、町有地や教員住宅の有効活用を図る必要があると考える。

(3)本町では、「子育て支援策」と「定住対策」を重要な二本柱とし、子育て世帯等の若年層に本町を選んでもらえるよう取り組んできた。町ホームページやSNS等を活用して効果的な情報を発信し、移住・

定住につなげていきたい。

また、山村留学とは、都市部の児童生徒等が農山漁村地域で自然体験や人間関係の交流を目的に現地の学校に通う制度であるが、町では複数の交流市町等と連携し、「小学生国内研修事業」を実施している。この事業では自然体験や農業体験を通じて忠類地域の魅力を伝える活動を展開しており、「ミニ山村留学」のような取組となっている。この取組が自然な流れで山村留学の実施へと拡大していくことが長期的な視点で必要であるが、現時点では、実施に向け機が熟するには至っていないため、引き続き景観や観光資源を活かし、交流人口の拡大に努める。
(4)本町では令和元年から地域おこし協力隊の任用を開始し、市街地活性化や地域情報発信等の活動を担っている。忠類地域ではこれまで3名の隊員を配置し、誘客促進や郷土読本執筆等を行ったが、令和6年度以後、不在となっている。町では従来の募集方法を見直し、

山村留学の実施には、受け入れ家庭の意思と熟度が重要である。自然な流れで取り組むためには仕掛けも必要であるが、受け皿として快く受け入れられる環境が整うことが必要と考える。

再質問

実際に住むことが出来る状態の公営住宅の物件は。

答

空き家59戸のうち、入居可能な住宅は実質38戸という状況である。

再質問

山村留学の機が熟す時とはどのような状況を指すのか。

答

山村留学の実施には、受け入れ家庭の意思と熟度が重要である。自然な流れで取り組むためには仕掛けも必要であるが、受け皿として快く受け入れられる環境が整うことが必要と考える。

再質問

移住・定住のノウハウを持つアドバイザーの採用はどうか。

答

アドバイザーの導入は一つの方法ではあるが、どこでも成功するわけではない。人的なネットワークの重要性が確認でき、助言を活用することでさらに良い成果が得られる可能性があると考えます。